



季刊

弥生の出雲王に出会える



出雲弥生の森博物館だより

IZUMO YAYOINOMORI MUSEUM

第29号

(2018年4月)

出雲弥生の森まつり2018

4月29日は当館の開館記念日です。今年もこの日を中心に「出雲弥生の森まつり」を、地元「弥生の森おおつ」などと協力して開催します。

4月28日(土) オープニング

出雲商業高校 書道パフォーマンス



10時〜

よすみちやんクイズ

11時〜

よしとの飛び出す紙芝居

13時〜

紙芝居と音楽をミックスさせた歌あり踊りありクイズありの新感覚参加型紙芝居!



喫茶コーナー

10時〜15時

4月29日(日・祝)

よすみちやん折り紙教室

10時〜13時

博物館探検隊

11時〜
普段は見ることができない博物館の裏側を探検しよう!

西谷墳墓群ガイドサービス

10時〜15時

火起こし体験

10時〜15時

まが玉づくり体験

10時〜15時



同時開催 史跡公園イベント

4月28日(土)・29日(日・祝)

地元にぎわいコーナー

10時〜15時

有料 屋台村

・焼そば

・唐揚げ など

無料 わたがし

サービス

無料 野外遊びコーナー

・まてばしい飛ばしに挑戦!

・吹き矢など

4月30日(月・振)

弥生の森

特製大鍋

(限定100食)

12時〜



ものづくり体験が大集合!

古代体験フェスティバル

13時〜16時

無料 復元した弥生土器でご飯を炊こう!



みよし風土記の丘・

広島県立歴史民俗資料館

有料 おゆまるで作ろう!

まが玉ストラップ

有料 和同開珎づくり

八雲立つ風土記の丘

有料 オリジナルプランづくり

古代出雲歴史博物館

荒神谷博物館

有料 まが玉消しゴムづくり

出雲弥生の森博物館

5月3日(木・祝)〜6日(日)

無料 キャラ探しスーパ―

博物館に隠れているキャラクターを探そう!全部見つけると素敵なプレゼントがもらえる。

※イベント内容や開催時間は変更になる場合があります。詳しくは博物館ホームページをご覧ください。



★特集 研究ノート⑳ ギャラリー展

築山遺跡出土木簡と

中世出雲の牛頭天王信仰

この冬、インフルエンザが大流行しました。このような病気の原因は主にウイルスや細菌であるが、現在の私たちは認識していませんが、その発見は世界的にも19世紀以降のことです。

日本では、目に見えない病気や死の原因として、古代から「鬼」の存在が意識されてきました。平安時代の仏教説話集『日本霊異記』には、讃岐国(今の香川県)の女性が病気となり、地獄から閻魔王の使として来た鬼に対して家の門前に用意した料理を食べさせ、満足した鬼に許され難を逃れるという話が載っています。この説話では、鬼を「疫神」とも言い換えており、当時の人びとの鬼に対する意識がうかがえます。

中世になると、疫神として「牛頭天王」が意識されます。牛頭天王は本来、インドの祇園精舎の守護神とされ、初めは疫病を流行させる神であったのが、次第に疫病から人々を守る神へと立場を変え

ました。『日本霊異記』の話のように、疫神を接待する行為が次第に信仰へとつながったのでしよう。牛頭天王信仰は、祇園社(今の京都・八坂神社)を中心に、祇園社とつながりのあった天台宗延暦寺のネットワークを通して全国へ広まりました。

中世出雲の牛頭天王信仰をうかがい知ることができなのが、築山遺跡で見つかった木簡です。長さ77cmの大きな木簡で、牛頭天王を表現したかのように成形されています。全国的に見ても、牛頭天王を主とする木簡は珍しく、その形も他に例がありません。その年代は、周囲で見つかった土器から、15世紀(室町時代)頃と推定されます。

木簡の文字を見ると、中心に「南無牛頭天王」、その上には梵字で「アピラウンケン」と書かれています。この梵字の言葉は、大日如来に祈るときに使われます。大日如来は密教(天台宗・真言宗)の中心的な仏で、この木簡には密教の僧侶が関わったことをうかがわせます。牛頭天王に冠された

「南無」も仏教用語です。

一方で、木簡の下部に書かれた「九々八十一」「天刑星」は陰陽道に関わる言葉です。陰陽道では九を最も縁起の良い数とし、「九々八十一」は九と九が重なる最大数としての呪力を込めた言葉です。「天刑星」は本来、道教の神で、次第に牛頭天王と同一視されました。

中世の牛頭天王信仰は、日本古来の山岳信仰と密教が結びついた修験道や、陰陽道の知識をもつ僧侶が村里をめぐる広めたこととされ、この木簡は密教と陰陽道の思想が混在していることを示す好資料です。

そして、この木簡は地面に掘られた楕円形の穴の中で真北に向かつて供えられたように見つかりました。真北には鼻高山を見通せ、その山の向こうには鰐淵寺が位置します。鰐淵寺は修験道の聖地であり、中世には延暦寺の末寺として勢力を誇りました。当時、鰐淵寺でも牛頭天王は信仰されてお

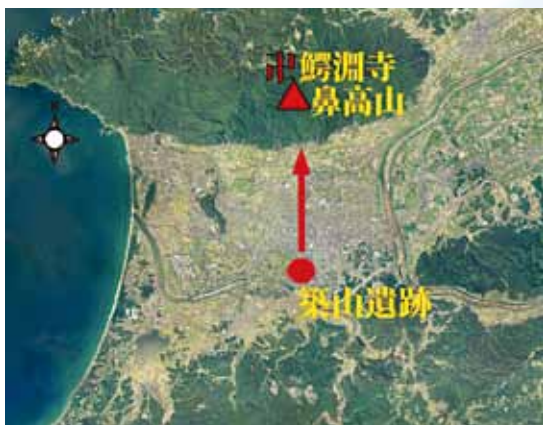
り、この木簡は、鰐淵寺の牛頭天王を意識して埋納された可能性があります。木簡の内容から密教僧の関与がうかがえることも、その傍証となるでしょう。

このように、築山遺跡で見つかった牛頭天王に関わる木簡は、その形状や文字の内容だけでなく、埋納の背景まで推測できる興味深い事例です。15世紀は牛頭天王信仰の初期で、その信仰の展開が分かる稀有な資料と言えます。

(高橋 周)



牛頭天王木簡の実測図



★春季企画展

ふるさと今昔物語その1

—佐田町—

開催中(5月21日(月))

出雲市野石谷町の高野寺に、「大般若経」(国重要文化財)599巻(1巻欠)が伝わっています。

この経典は、もとは須佐神社(佐田町須佐)に納められていたものでした。巻第六百の奥書には、中国の浄蓮が1288年から1292年まで丸4年かけてほぼ一人で書写し、十三所大明神(須佐神社)に奉納し、毎年転読廻向がなされたとあります。施主は、須佐郷の地頭代(現地管理人)で、幕府の最高権力者であった北条氏につながる可能性が高い人物でした。

鎌倉時代、須佐郷には、北条氏の領地が約30haありました。写経が行われたのは、北条氏の権力が高まった時代です。その中で北条氏とつながりがある人物の庇護をうけて、宋人が写経を行っていたことは、中国との交流だけでなく、当時の出雲地方の政治や文化を知るうえでも、興味深い事実と言えるでしょう。

「大般若経」は、やがて須佐神

社を離れます。江戸時代の寛文年間(1661〜73)、松江藩内では、出雲大社をはじめとする神社で神仏分離が行われるようになり、須佐神社においても同様であったと考えられます。

この「大般若経」には、経典を納める経櫃が2合あります。一合につき二百巻納められていたもので、もとは3合存在したと考えられます。この櫃には、朱書きで、「雲州須佐大神」、「十三所大明神」、「大般若経函也」と書かれています。しかし、「雲州須佐大神」と「十三所大明神」の文字に限って、削り取られていました。これも、神仏分離によって須佐神社からの移動を余儀なくされたと同時に、もとの所在を隠す必要があったことを示しているのです。

(安部百合子)



高野寺所蔵大般若経経櫃
(縦 35cm、横 57cm、高さ 50cm)

★日本遺産

日が沈む聖地出雲の文化財

(第3回)

日本遺産「日が沈む聖地出雲」を彩る構成文化財紹介第3弾!

今回からは、日御碕エリアをご紹介します。稲佐の浜の北にのびる荒々しい海岸沿いには、魅力的な文化財が数多く存在します。



日御碕エリア

①日御碕

島根半島の最西端にあり、奇岩・絶壁が連なる変化にとんだ岬。目の前には日本海が広がり、夕日のパノラマを体感できる絶景地です。

平安時代末期(約900年前)の歌謡集『梁塵秘抄』には、鰐淵(鰐淵寺)とともに「聖の住所」として登場し、当時から修験の聖地として名高い場所だったことがうかがえます。

②筆投島

日御碕西側の海岸線には小島が点在します。そのひとつ、筆投島は、かつて頂に青松が茂る美しい島でした。その美しさは、平安時代に「画聖」と呼ばれた絵師・巨勢金岡が、朝夕刻々と変化する絶景を描ききれず筆を投げた、という伝承が残るほどです。

③つぶて岩

つぶて岩は、国譲りに反対したオオクニヌシの子・タケミナカタと、高天原の使者・タケミカヅチが力比べをし、投げ合った石が積み上がったものと言われられています。大岩が積み上がる不思議な光景は、まさに神業。近くの展望台から、夕日とともに眺めるのもおすすめです。(景山このみ)



大岩が積み上がった つぶて岩
(中央の石の高さは約10m)

★講座のご案内
▼出雲弥生の森博物館 職員リレー講座

出雲の文化財や歴史、最新の発掘成果について、文化財課職員がわかりやすく語ります。

5月26日(土)

「荒波を掻き分ける口田儀の船頭」
—鳥屋尾家文書の

【講師】 近世史料を中心に—
中山玄貴 (文化財保護係)

6月30日(土)

「平成29年度 市内発掘調査報告」
【講師】 埋蔵文化財発掘担当者 (埋蔵文化財係)

9月1日(土)

「出雲弥生の森博物館本『出雲国風土記』の系譜 —近世上方の文人との関わり—」
【講師】 高橋 周 (博物館学芸係)

右の講座はいずれも

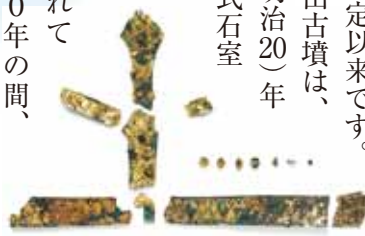
- 時間 14時～16時
- 受講料 300円
- 定員 80名

講座の受講には事前申込みが必要です。電話・FAX・博物館ホームページ等でお申し込みください。

★館長古来夢

出雲弥生の森博物館に展示されている上塩冶築山古墳の出土品が、国の重要文化財に指定されることとなりました(指定名称「鳥根県上塩冶築山古墳出土品」。金色に輝く冠、金銀で彩られた刀や馬具など、総数140点に及びます。出雲市内では6年前の庭訓往来(神門寺所蔵、1386年書写)の重文指定以来です。

上塩冶築山古墳は、1887(明治20)年にその横穴式石室が開かれ、副葬品が取り出されました。造られてから1300年の間、封印されたままだったおかげで、品々は稀にみる保存状態の良さを保っていました。学術研究に役立つよう、という発見者の考えで、一部の出土品は東京や京都の大学や博物館に寄贈されましたが、ほとんどの出土品は地元に残されて、今、この博物館にあります。



金の冠

この古墳の形と規模に関しては諸説ありました。現状で東西に長い長方形平面をしているのは、後

世に墳丘に手が加わったからに違いありません。今世紀になって、出雲市が古墳の周りを発掘調査したところ、古墳は円墳で直径46メートル、周囲には二重の周溝があつてそれを含めると直径100メートルにもなることがわかりました。山陰地方でこれに匹敵する6世紀の円墳は他にありません。さて、上塩冶築山古墳の発見は大きな話題となり、東京や京都からも学者が見学に来るほどでした。神戸川の川向うに住む人がこれを耳にして、「自分が山守りしちよー山にも同じやな古墳があーだねかや」と考えたそうです。

家人を動員してその古墳の発掘が始まりました。予想に違わず横穴式石室が姿を現し、刀や馬具や須恵器などの副葬品が発見されました。放レ山古墳(古志町)でした。今なら文化財保護法に触れませんが、当時はそんな法律もありません。幸い、古墳は大切に保存され、出土品は県立古代出雲歴史博物館に収蔵されています。



ハート型の馬具

発掘記念に植樹された桜は大樹となりま

した。今ごろ満開でしょう。

市内で横穴式石室の学術目的の調査が行われたのは1956(昭和31)年のこと、出雲高校による妙蓮寺山古墳(下古志町)の発掘でした。その後、1983(昭和58)年には今市大念寺古墳(石室開口は1726年)、2008年には国富中村古墳(国富町)の調査が続きます。いずれの出土品も出雲弥生の森博物館で見ることができます。

上塩冶築山古墳出土品は、現在、お披露目のため、多くが東京国立博物館に「出張中」です。帰ってきたら、市民の皆さまにぜひあらためてご覧いただきたいと思ひます。しばしお待ちください。

(花谷 浩)

(発行) 出雲弥生の森博物館

2018年4月

〒693-0011
鳥根県出雲市大津町2760
(TEL) 0853-25-1841
(FAX) 0853-21-6617
(E-mail) yayoi@city.izumo.shimane.jp
<http://www.city.izumo.shimane.jp/yayoinomori>

- 入館料 / 無料
- 開館時間 / 9:00～17:00 (入館は16:30まで)
- 休館日 / 火曜日 (祝日の場合は翌平日) 年末年始

